



学校通信

平成30年度 第6号
平成30年10月 2日
練馬区立開進第三小学校
校長 岡部 良美

『本気でやれば、必ずできる』

校長 岡部 良美

私たちは向上心があれば伸びることができ、私たちの人生は充実します。基本的に、成長するには意欲があるかどうかであると思います。『人は、本気でやれば、だれでも必ずできることがある』と私は信じています。人には思考力や創造力があるものです。体のあらゆる感覚器官をとおして何かを感じるものです。

学校教育では、子供一人ひとりに「生きる力」をはぐくむことを目指しています。「生きる力」の語源は、Zest for living「生きる喜び」です。「Zest」とは、「関心をもって」「熱意」「欲求」という意味です。生きることに強い興味や関心をもってということなのです。だからこそ、私は「生きる力」とは、「生きる心力」「生き抜く心力」であると考えています。

人は、人から指図・指示・命令されることは、一応、言われたように一通りするものです。しかし、その時のやる気や本気度は計りかねるものです。ところがどうでしょう。「自分はこれをしてみたい」、「これならできそうだ」と感じた時には、取り組み方が本気モードに変わってきます。このモードで取り組む時こそ、本物の充実感、手ごたえを自覚・認識できるのです。そして自己肯定感をはぐくむことにつながるのです。本気モードは、時を忘れて、空腹を忘れて取り組むものです。こういう時間こそ、生きる力がどんどん培われていく時間です。

今の子供たちの中に、「自分なんて」、「どうせ無理」という言葉や雰囲気が目立ちます。子供の特権は、可能性がいっぱいに詰まった未来があることです。夢や希望が室のように詰まった未来があるのです。今の自分の限界を感じることも、今の自分を未来にどうつなげていくか、どう導いていくかが大切です。

子供は普段の生活の中で、どれだけ本気モードの時間をもっているのでしょうか。「恵まれすぎ」、「何一つ不自由がない」という状況では本気モードにはなかなかられません。本気モードの時間が多ければ多いほど、生きる手ごたえを感じるものです。子供も大人も、人はだれでも、よりよく、今よりも成長したいと願っています。一つひとつ、一日一日のかけがえのない体験を本気モードでやれば、必ずできることがあるものです。そのことを開進第三小学校時代に、一人ひとりの子供に多く検証をしてほしいと私は願っています。

『平成最後の運動会 一人一人が全力勝負!』。これは、子供たちが決めたスローガンです。開三小の子供たち662名は、本気モードで10月6日の運動会に向けて活動しています。4月から学習してきたことを土台に、本気モードで取り組んできた成果が、一人ひとりの子供の姿に、学級・学年集団の姿に表れたらうれしいと思っています。そして、子供一人ひとりが『本気でやれば、必ずできる』ことを実感して、誇りと自信を深めていくことを期待しています。緑鮮やかな人工芝の校庭で初めて行う運動会。多くの保護者・地域の皆様のご参観をお待ちしております。